

銀座街づくり会議シンポジウム | 開催報告

「歩いて楽しい街」銀座とモビリティの調和

銀座では数年にわたる中央区との協議と調査を踏まえて、駐車場「銀座ルール」が昨年10月に改正されました。改正に伴い、より地域の実態に即して柔軟にルールを運用できるように、ルールの運用は従来の中央区から、銀座街づくり会議内につくられた銀座駐車場協議会が行うことになりました。以降、開発地域の実態を考慮して1件1件の協議と判断を積み重ねています。立ち上げからおよそ1年が経ち、銀座の様々な交通問題が、駐車場という観点から明らかになりつつあります。銀座街づくり会議では、『「歩いて楽しい街」銀座とモビリティの調和』をテーマにシンポジウムを開催しました。2024年10月3日、会場+オンライン合わせて150名の方がご参加くださいました。

銀座街づくり会議では2022年から新しい銀座ビジョンを検討しています。開会挨拶で伊藤明さん（銀座ビジョン会議リーダー）は、歩いて楽しく、街にいて心潤うような場所にしたいとビジョンの大きな方針を語り、シンポジウムがはじまりました。

まずはじめに、「銀座モビリティ・デザイン（案）」（2015）をまとめてくださった中村文彦先生（東京大学）から、歩いて楽しい街を交通の観点から具現化していくために、駐車場、荷捌き、シェアサイクル、そして地下鉄新線など、複層的な交通課題が提示されました。「銀座モビリティ・デザイン（案）」では、交通の優先順位を①歩行者、②公共交通、③自転車、④自動車としており、昨今のウォークアブルな街づくりの潮流以前から、銀座は歩行者と人の移動や物流手段との心地よい関係を模索してきました。街やテクノロジーの変化を踏まえつつ、あらためて銀座ならではの歩いて楽しい街を目指すには、どのような道筋が考えられるでしょうか。

市街地の歩行者空間化の先駆けとして世界的に注目を集めるバルセロナでは、市内全街路のうち60%以上をすべて歩行者空間化するスーパーブロックプロジェクトが進行中です。このプロジェクトを実際に遂行した吉村有司先生（東京大学）の講演タイトルは、「バルセロナから学ぶ歩行者中心の街づくりとモビリティの共存」。バルセロナでは、歩行者空間化の利点として、①パブリックスペースの劇的な増加、②空気汚染の減少、③騒音レベルの低下、による市民生活の質の向上をあ

げていますが、加えて小売店や飲食店の売上への効果をデータで客観的に裏付けたこと、すなわち歩行者空間化することで小売店の売上が上昇することが実証されました。さらに公共交通機関の質の改善をはかったり、車両は速度を落として走行するなど歩行者空間の発展のための多角的な取り組みがなされています。吉村先生は、みんなが共存できる空間を協力してつくり育てることこそ、目指すべき都市像ではないかと語られました。

続くパネルディスカッションには吉村先生、中村先生、伊藤さん、そして進行は宮下貴裕先生（武蔵野大学）が登壇。宮下先生は、銀座の集約・参加の駐車場施設と出入口等の調査結果を報告し、既存駐車場が街のにぎわいとどう調和するのかという問題提起でパネルディスカッションがはじまりました。

銀座のグリッド状の街区はバルセロナと共通していますが、さらなる歩行者空間の拡大には、人を優先するデザインや通りの楽しみ方のリテラシーを高めて街全体を育てる意識が大事だと吉村先生は指摘します。歩行者空間化の評価をデータで示したり、新しい技術をうまく取り入れて効率化を図ることが今後ますます身近になると中村先生は述べられます。伊藤さんは、多様な要素が混在する銀座の路上環境の課題を挙げながらも、歩いて楽しい銀座という共有資産の発展に向けてみんなで同じ方向に向かいたいと期待を込めました。

最後に堀田峰明さん（全銀座会街づくり副委員長）は、銀座はシビックプライドあふれる街、ボトムアップ型で銀座らしく成長したいと締めくくり、閉会しました。